

小田原高校のグローバル教育の取組（平成 28 年度～平成 30 年度）

小田原高校は、県立高校改革（I 期）の中でグローバル教育の指定を受け、平成 28 年度より平成 30 年度まで取り組みを進めてきました。その 3 年間で行ってきたことを報告します。また、平成 31 年度からは理数教育の指定を受けており、小田原高校の教育活動は新たな展開をしていきます。

なお、グローバル教育を推進するにあたっては、既存の「国際教育推進担当者会」を拡大して事業を進めました。

1. グローバル人材育成のために

(1) 小田原高校のグローバル教育

小田原高校でグローバル教育を推進していくにあたって目標を設定しました。次の表は、本校が取り組んできた様々な教育活動をグローバル人材育成の視点から見直し、育成したい態度やスキルなどを 7 つにまとめたものです。

小田原高校のグローバル教育の目標と育成場面

1	主体性、積極性、チャレンジ精神、協調性、柔軟性、責任感、使命感、リーダーシップ ○本校の日常の学習活動や学校行事、部活動など
2	異文化に対する理解、自分と異なるものを受け入れる態度 ○国際交流や多様な人とのふれあいなど
3	日本の歴史や文化の理解、礼儀正しさ ○国語、地歴などの学習や日本の伝統文化に携わる部活動、生活面の指導など
4	論理的思考力、表現力、課題発見・解決能力 ○日常の学習や総合的な学習の時間、学校行事、部活動など
5	幅広い教養とそれを活用する力、高い目標に向けて努力する態度 ○本校の学習活動や高い目標に向かって努力する進路選択など
6	語学力、コミュニケーション能力 ○英語学習、グループ学習など
7	持続可能な社会を築こうとする態度 ○総合的な学習の時間や持続可能性を意識した学習活動など

(2) 重点を置いた分野

育成したい態度やスキルのうち、平成 28 年度～平成 30 年度は、リーダーシップ、異文化に対する理解の 2 つに重点を置くことにしました。理由は次のとおりです。

○小田原高校は、リーダーシップを発揮して社会で活躍できる人材の育成を目標としてきた。



本校は、生徒に高い学力を身に付けさせるとともに、様々な行事（文化祭、スポーツ大会、体育祭、合唱コンクール）を通して生徒がリーダーシップを発揮する場面を多く提供しています。また、部活動が活発に行われており、部長、副部長だけでなく、下級生の指導を通して多くの生徒がリーダーシップを高めてきました。このような取り組みを考えたとき、リーダーシップ教育を充実させることは意義があると考えました。

○姉妹校交流が数年間停滞していたため、交流体験などの機会を設ける。

国際教育推進担当者会が中心となって国際交流等の活動を行っていましたが、姉妹校との相互訪問交流が相手校の都合でできない状況が続いていました。新たな交流先や海外研修を考えることも含めて国際交流を充実させる必要があると考えました。

2. 各年度の取組

平成 28 年度から平成 30 年度までの主なグローバル教育の取組は次の表のとおりです。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
5 月		・ 萬芳高級中学（台湾）教員訪日団来校	・ ウォルトホイットマン高校訪問報告会
6 月	・ 「届けよう！服のチカラ」プロジェクト参加	・ 「届けよう！服のチカラ」プロジェクト参加	
7 月	・ 台湾教員訪日団来校 ・ GTEC for Students（3 年次）	・ GTEC for Students（3 年次） ・ UNESCO ユースセミナー参加	・ GTEC（3 年次） ・ ウォルトホイットマン高校来校
8 月			・ UNESCO ユースセミナー参加 ・ 中学校教員との即興型ディベートセミナー開催
9 月	・ ユースフォーラム（ソロプチミスト）優秀賞受賞 ・ 中国高校生訪問団来校	・ 2 年次台湾研修旅行で萬芳高級中学（台湾）訪問	
10 月	・ グローバル教育講演会開催 ・ フィリピン料理教室開催	・ グローバル教育講演会開催 ・ 東海大学で学ぶ留学生との交流会開催	・ グローバル教育講演会開催 ・ 東海大学で学ぶ留学生との交流会開催
			
11 月	・ 即興型ディベート交流大会出場（3 位） ・ GTEC for Students : speaking（1～2 年次） ・ 地方創生政策アイデアコンテスト参加及び校内発表	・ 即興型ディベート交流大会出場（個人賞 1 名） ・ GTEC for Students: speaking（1～2 年次） ・ マカオ高校生訪問団来校	・ 即興型ディベート交流大会出場（個人賞 2 名） ・ GTEC: speaking（1～2 年次）
12 月			・ ユネスコスクール全国大会（横浜）のワークショップに生徒 6 名参加。
1 月	・ GTEC for Students（1～2 年次）	・ GTEC for Students（1～2 年次）	・ JICA 横浜の「国際理解入門セミナー 世界の入口に立とうとびだせ！高校生 2018」に生徒 3 名参加。
			
3 月		・ ウォルトホイットマン高校（米国）訪問	

※このほかに、英語科では、生徒のスピーキング力や「やり取り」の力を向上させるために、平成 29～30 年度に「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」に取り組みました。

3. リーダーシップ教育～グローバル教育講演会～

リーダーシップ教育としてグローバル教育講演会を企画・開催しました。主に、リーダーとして社会で活躍している方を講師に招き、講演をお願いしました。多くの場合、本校の卒業生に講演をお願いしました。講演をしていただいた方は次のとおりです。なお、平成 30 年度は日程の都合で3年次は実施しませんでした。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
1 年次	瀬戸 薫 氏 ヤマトホールディングス株式会社取締役相談役	佐藤 士文 氏 アムネスティ・インターナショナル日本	福井 泰代 氏 株式会社ナビット代表取締役
2 年次	磯崎 功典 氏 キリンホールディングス (株) 代表取締役社長	中戸川 仁 氏 東京工業大学准教授	磯崎 功典 氏 キリンホールディングス (株) 代表取締役社長
3 年次	山口 学 氏 関電工代表取締役会長	山口 学 氏 関電工代表取締役会長	

主な目的は、リーダーが持つべき自覚、責任や使命などについて生徒に理解してもらうことですが、講演者の方々には当初の目的以上の話をさせていただきました。例えば、平成 28 年度の講演会では、リーダーにはリーダーとしての自覚、責任、使命、覚悟をもつことが大切であること、外国の人たちと対等に意見を交換するために高い教養が必要であるということ、などの話をいただきました。

平成 29 年度は少し目的を変えて、アムネスティ・インターナショナル日本の佐藤士文氏を講師に招き、世界で何が起きているかを人権の視点から1年次の生徒に話をさせていただきました。また、2年次は東京工業大学の中戸川仁氏を招いて世界最先端の研究について講演をさせていただきました。

平成 30 年度は、講演者の福井康代氏が発明家でもあることから、発明に関わる様々なことについて話をいただきました。講演後に気がついたことですが、持続可能な社会を築くためには、**invention, innovation, campaign** が必要であるとも言われており、福井氏の講演は「持続可能な開発のための教育 (ESD)」としての位置づけをすることもできたという感想を持ちました。

4. 国際交流

(1) 留学生の受け入れ

例年1名の留学生を受け入れています。主な目的は、自分たちと異なる文化を背景に持つ人を受け入れる態度や異文化理解の態度を育成することです。また、生徒の英語への学習意欲が高まることも期待できます。留学生には英語の授業で自国の紹介をしてもらっています。

平成 30 年度は長期留学生2名、短期留学生2名を受け入れました。7月には3名の留学生が本校で学んでいたことから、英語の授業で単に自国の紹介をするだけでなく、1クラスを12名ずつ3グループに分けてディスカッションを行いました。そうすることで、生徒の一人ひとりが英語を話す機会を多く持つことができ、楽しく交流を進めることができました。

(2) 海外の学校との交流

小田原高校では姉妹校との交流が停滞していましたが、グローバル教育の指定を機会に、姉妹校であるカナダのAYジャクソン高校と、メールを使った交流を再開しました。

また、米国メリーランド州にあるウォルト・ホイットマン高校から相互訪問交流の機会をいただき、平成 29 年 3 月に本校の生徒が渡米しました。また、平成 30 年 7 月にはウォルト・ホイットマン高校の生徒が来校し、ホームステイや授業参加などを通して交流を図りました。

平成 29 年度は台湾の学校の校長が視察のため本校を来校したことをきっかけに、台北にある萬芳高級中学の職員視察を受け入れたり、海外研修旅行で本校の生徒 40 名が萬芳高級中学を訪問したりして、教員および生徒間の交流を図ることができました。

そのほかにも、平成 28 年、29 年に中国の高校生が来校しました。それぞれ半日ずつの交流でしたが、国際交流委員がホストとなり、歓迎会、校舎見学、授業参加、部活動体験などを行いました。

(3) 東海大学で学ぶ留学生との交流会

平成 29 年度および 30 年度は、10 月に東海大学で学ぶ留学生 10 名程度に来校してもらい、参加希望生徒との交流会をもちました。主な目的は、外国人との交流や異文化理解の楽しさを経験させることと、英語を話す機会を生徒に提供することです。基本的には、両年度とも 6～7 名のグループに分かれて英語で「おしゃべり」をするという形で行いました。

平成 29 年度は 1 回の「おしゃべり」を 20～30 分程度とし、グループを変えながら「おしゃべり」を 3 回行いました。ただし、2 回目、3 回目は途中でトピックを提示してそれについて話をするように促しました。

平成 30 年度は、東海大学で県内のユネスコスクールを支援している小貫大輔教授と星久美子氏も来校していただきました。最初にアイスブレイキングとして「異文化挨拶リレー」を行いました。その後、前年度と同様にグループを変えながら「おしゃべり」を 2 回行い、3 回目は「自分の国の人たち、日本人たち」というテーマで、自分の国の人々の国民性についてディスカッションを行い、話し合った内容を英語で発表しました。



5. 持続可能な開発のための教育

(1) ユネスコ・ユースセミナー

東海大学が県内のユネスコスクール等を対象にユースセミナーを開催しています。本校はユネスコスクールではありませんが、希望する生徒を参加させてもらっています。平成 29 年度は生徒 2 名、平成 30 年度は 10 名が参加しました。それぞれ共生、環境というテーマで、講演、体験学習、ディスカッション、プレゼンテーションなどの学習活動が行われました。外国人学校の生徒や留学生も参加しており、テーマに関する理解を深めるだけでなく、異文化理解・多文化共生について体験的に学習することができました。

平成 30 年度は、ユネスコスクール全国大会が横浜で開催されました。そこで行われた「多文化理解・多文化共生」に関わるプログラムに、ユネスコ・ユースセミナーや東海大学で学ぶ留学生との交流会に参加した生徒が中心となって参加し、このテーマについてさらに理解を深めました。

(2) 「届けよう！服のチカラ」プロジェクト

ユニクロが世界の難民の子どもたちに服を送るプロジェクトを行っています。本校生徒からも本プロジェクトに参加したいとの声があがったので、参加希望生徒を募り、平成 28 年度、29 年度にこのプロジェクトに参加しました。主な目的は、世界で起きている問題に対して自分たちにもできることがあるということを理解してもらうことです。なお、平成 30 年度は、活動時期がウォルト・ホイットマン高校の来校時期と重なるため参加を見送りました。



プロジェクトに参加した生徒たちは、家で着なくなった子供服を提供してもらうように全校生徒に呼びかけ、その結果、多くの服を集めることができました。また、平成 28 年度は小田原市立新玉小学校と県立小田原養護学校、平成 29 年度は小田原市立城山中学校にも協力をしていただき、これらの学校からも多くの子ども服を提供していただきました。

(3) 小田原寺子屋スクール

「届けよう！服のチカラ」プロジェクトとの関連で、平成 29 年度は小田原寺子屋スクールで行われた難民に関する講座に参加させていただきました。「届けよう！服のチカラ」プロジェクトに参加している生徒のうち3名が、イラク難民に関する女性写真家の講演を聞かせていただきました。本講演会にはイラク難民の方も来ており、イラクの内戦で実際に何が起きているかを知ることができました。

(4) 通常の授業

教科によっては持続可能性に関わる授業を行いました。

- 「理想の学校」というテーマで環境に優しい学校を考えさせて発表させた。
- カカオを題材にして先進国と発展途上国との関係を考えさせた。
- 使わない鉛筆を集めて、発展途上国の学校へ送った。
- 英語の教科書の題材（環境、教育）について、「持続可能な開発目標（SDGs）」の観点から、考えさせた。
- 日本における外国人労働者の受け入れを増やすことについて、多文化共生の視点から話し合いを行い、自分たちの意見を発表させた。

6. 英語教育

(1) 英語の授業

英語のコミュニケーション力を高める取組を行いました。平成 29 年度は **reproduction** および **retelling** を取り入れた授業実践を行いました。また、平成 30 年度は「やり取り」の力を伸ばすことを目標とした学習活動を行いました。具体的には、**retelling** 後に、読んだ内容について自分の考えを伝えあうという活動をしました。また、日常的な事柄について話をしたり質問し合ったりする活動を帯活動として展開しました。

(2) スピーチコンテスト

本校は、小田原市内で行われるスピーチコンテスト、神奈川県の高校生スピーチコンテストに応募、参加しています。英語教員および ALT が指導をし、スピーチコンテストに参加する生徒は、英語の原稿作成から、発音や実際のスピーチを想定した実践的な練習を行っています。

(3) 即興型ディベート

本校は、神奈川県内で行われる即興型ディベート交流大会に第 1 回から参加しています。第 2 回大会では 3 位となりました。平成 30 年度は 2 試合行い 2 試合とも勝利しましたが、残念ながら上位入賞には至りませんでした。



(4) GTEC など

外部検定試験として GTEC を利用し、4 技能の力を測定しています。また、平成 30 年度の 1 年次生はスタディサプリ English を導入し、学校以外の場所もリスニング力、スピーキング力を伸ばす学習ができるようにしました。

7. 今後の取組

県立高校改革（Ⅰ期）が終了しました。平成 31 年度からは、県立高校改革（Ⅱ期）として理数教育に取り組みます。グローバル教育への取組は平成 30 年度をもって区切りをつけますが、姉妹校交流は海外研修に変えて実施をします。平成 31 年度は米国アイダホ州の大学、高校、教育施設などを訪問する予定です。

リーダーシップ教育については、グローバル教育の指定を受ける前から取り組んでいたように、行事、部活動などを通して行っていきます。

国際交流や持続可能な開発のための教育は、ユネスコ・ユースセミナーなどへの参加や東海大学の留学生との交流会などを通して継続します。

英語の授業においては、大学入試において、これまで以上に外部検定試験が活用されることから、スピーキングやライティングなどの英語による発信力の育成に一層取り組み、4 技能をバランスよく育成していきます。